

登録コード	E7172400	開講年度	2026				
授業科目	卒業研究					担当教員	佐藤 和紀
英文授業名	Graduation Study					副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室	教育研究室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	卒業論文の執筆を通して、学位を取得することの意味を理解しながら、学校教員として専門性を身につけることの使命感や、学術研究に関する倫理観を身につける	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	学校現場から取得するデータの取り扱い、分析方法、論じ方の基礎的な知識・技能を習得すると共に、学校現場で勤務しながらどのようにデータを取得し、科学的に分析をして、実践に行かせば良いか、その基礎的な知識・技能を習得を習得する	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	研究テーマを設定し、研究目的を達成するための研究方法を決定し、卒業研究を進め、研究結果に基づいた考察を行い、それらを定められた形式に則って論文にまとめていく一連の過程の指導を行う。 (1)「授業のねらい」を達成するために、具体的には、以下のことができるようになることが求められる。 1) 現代的な教育課題に関する研究テーマを設定すること 2) 設定した研究テーマを追究するための研究方法を設定すること 3) 設定した研究方法に沿って研究を進めること 4) 結果に基づき考察すること 5) 研究成果を学術論文としてまとめること 6) 研究成果を学会・研究会等において発表すること 7) ゼミにおいて建設的な意見交換・討論を積極的に行うこと 8) 1)～7)を通して、学校現場の授業改善・課題解決に貢献する資質・能力を修得すること						
(5)授業計画	・ゼミにおける集団での研究指導を基本にしつつ、必要があれば個別での研究指導を行う。 ・ゼミにおける集団指導では、毎回、卒業研究の進捗状況をレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表用レジュメには、以下の点を必ず記載し、所定の期日（原則としてゼミの前日24時）までにeALPSに提出（アップロード）すること。 1) 研究テーマ 2) 研究目的（何をどこまで明らかにするか） 3) 本日の発表内容（調べてきた内容） 4) 考察（調べてきた内容に対するコメント） 5) 次回へ向けての課題						
(6)成績評価の方法	・ゼミにおける毎回の発表・討論状況（30%）、ICTに関する専門的知識・技能、情報活用力を応用した卒業論文（30%）、卒論の成果の一部の学会発表（40%）を総合して判定する。 ※但し、ゼミの出席状況が芳しくない場合、卒業論文が未提出の場合、あるいは卒業論文の内容が一定基準に達しない場合には、単位の認定ができない場合がある。 ・卒業論文は、次の点について評価する。 1) 研究テーマの妥当性 2) 研究目的と研究方法の整合性 3) 研究結果、考察、今後の課題の明確さ 4) 論文の形式 5) 学会発表をしていること ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：卒業論文では、1)「研究テーマの妥当性」、2)「研究目的と研究方法の整合性」、3)「研究結果、考察、今後の課題の明確さ」、のいずれもが卓越しており、論文の形式も完全に整っている。また、ゼミにおける討論ではディスカッションに積極的に参加して他の学生の意見を引き出しつつまとめ役をしている。 「かなり上である」：卒業論文では、1)「研究テーマの妥当性」、2)「研究目的と研究方法の整合性」、3)「研究結果、考察、今後の課題の明確さ」、のいずれもがかなり上であり、論文の形式もほぼ整っている。また、ゼミにおける討論ではディスカッションに積極的に参加しつつ他の学生の意見を引き出している。 「やや上にある」：卒業論文では、1)「研究テーマの妥当性」、2)「研究目的と研究方法の整合性」、3)「研究結果、考察、今後の課題の明確さ」、のいずれもがやや上にあり、論文の形式も整っている。また、ゼミにおける討論ではディスカッションに積極的に参加している。 「水準にある」：卒業論文では、1)「研究テーマの妥当性」、2)「研究目的と研究方法の整合性」、3)「研究結果、考察、今後の課題の明確さ」、のいずれもが水準にあり、論文の形式も整っている。また、ゼミにおける討論ではディスカッションに参加している。						

(8)事前事後学習の内容	【発表者】所定の期日（原則としてゼミの前日24時）までに、発表用レジュメを作成して、eALPSに提出（アップロード）する。レジュメには、1）研究テーマ、2）研究目的（何をどこまで明らかにするか）、3）本日の発表内容（調べてきた内容）、4）考察（調べてきた内容に対するコメント）、5）次回へ向けての課題、の5点を記載する。また、ゼミ後には、ゼミの振り返りをeALPSに記入する。 【他の受講生】ゼミまでに、発表者のレジュメをeALPSからダウンロードして読んでおき、質問や話してみたい点を考えておく（書き出しておくとうい）。また、ゼミ後には、発表者の振り返りに対して、eALPSでコメントする。
(9)履修上の注意	・毎回のゼミでは、発表用レジュメを必ず作成して参加すること。 ・自分の発表だけではなく、同じ研究室の仲間との意見交換・討論へ積極的に参加すること。 ・ゼミの無断欠席は、理由の如何を問わず、単位の認定ができない場合がある。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	・佐藤研究室 次世代型学び研究開発センター2F - オフィスアワー：（前期・後期）
【教科書】	研究テーマに応じて適宜紹介する
【参考文献】	研究テーマに応じて適宜紹介する